

岡崎市などが主催する「地域活性化フォーラム」において、  
本学藤井芳一助教の発表の様子が中日新聞にとりあげられました。

# 高校 大学連携し環境教育

岡崎大學懇話会や岡崎市などが主催する地域活性化フォーラムが二十四日、市図書館交流プラザであり、三河地域の課題に取り組んだ市内の大学の研究者五人が研究成果を発表した。(辻紗貴子)

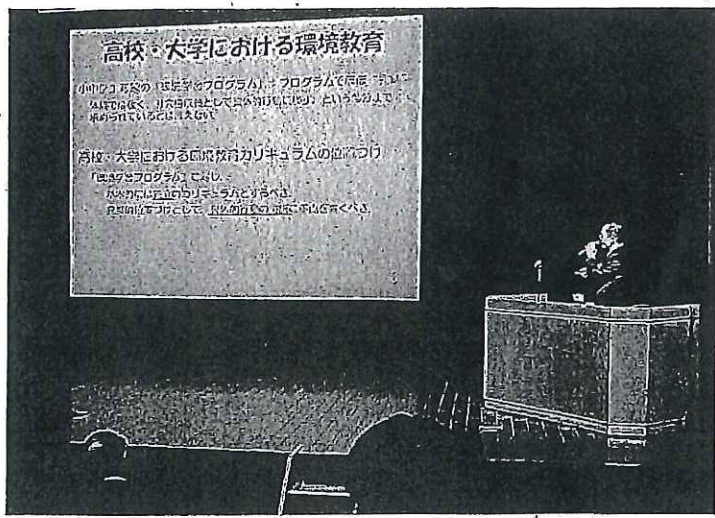
## 岡崎大學懇話会 研究者が提案

人間環境大の藤井芳一助教は、市内の高校と大学が連携した環境教育プログラムを提案した。高校では授業で得た環境保護の知識を活用する経験をし、大学では環境問題に他校などと共同して取り組んで解決を目指すことが望ましいと述べた。

「環境教育は幼児から社会人になるまで継続的に取り組んでいくべきだ」と呼び掛け、大学生が各世代のつなぎ役になり、そこで生まれる交流が「持続可能な社会の構築に貢献できる人材育成につながる」と説明した。

他には、学生の長期実践型インターンシップ(就業体験)の紹介や市内中心部を流れる乙川周辺地区活性化への提言などがあった。

岡崎大學懇話会は市内七大学で構成され、各大学の特性を生かし地域と地域産業の活性化の推進に取り組んでいる。



地域課題の研究結果を発表する、人間環境大の藤井助教＝岡崎市図書館交流プラザで

※記事・写真等は新聞社の許諾を得て転載しています。